

## 日本ウマ科学会 2023年度 第2回常任理事会議事録

日 時：2023年3月6日（月）13：30～15：30

場 所：日本装削蹄協会（JRA 新橋分館 4階会議室）

出席者：青木 修 会長  
田谷 一善 副会長  
笠嶋 快周 副会長  
山中 隆史 庶務担当常任理事  
半澤 恵 会計担当常任理事  
楠瀬 良 編集担当常任理事  
近藤 高志 学術担当常任理事  
桑原 正貴 国際担当常任理事  
平賀 敦 広報担当常任理事  
佐々木 直樹 臨床担当常任理事（オンライン出席）  
小野 圭一 事務局長  
福田 健太郎 JRA 競走馬総合研究所 企画調整室 上席調査役

議題：

はじめに 青木 会長 挨拶

1. 役員の変更について . . . . .（山中・事務局）
2. 第35回学術集会開催報告 . . . . .（近藤・事務局）
3. 2023年活動計画について . . . . .（事務局）
4. 第36回学術集会予定 . . . . .（近藤・事務局）
5. その他
  - 1) 第3回認定馬臨床獣医師認定試験について . . . . .（佐々木・事務局）
  - 2) 臨床委員会企画の準備状況 . . . . .（佐々木・事務局）
  - 3) 編集委員会の議事概要（口頭報告） . . . . .（楠瀬）
  - 4) ICEEP12の開催準備状況について . . . . .（山中）
  - 5) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について . . . . .（近藤）

## 議事概要：

### 議題 1. 役員の変更について

- 青木会長のあいさつに続き、事務局から小野圭一事務局長の JRA における定期人事異動に伴う退任と、それに伴い福田健太郎 JRA 競走馬総合研究所 企画調整室 上席調査役の新事務局長への就任の提案があり一同承認。

### 議題 2. 第 35 回学術集会開催報告

- 近藤学術担当常任理事が、11 月 28 日(月)～11 月 29 日(火)に行われた学術集会に関する詳細を報告。このうち 11 月 29 日に行う予定だったシンポジウムは中止となったが、録画映像を 2023 年 1 月 19 日から Web 配信していることを報告。配信サイトにてシンポジストによる Dr. Toutain への質疑応答の内容も含めて 3 月末まで公開を予定しているが、視聴者数は極めて少ない状況。来年度の撮影は不要との見解が示された。
- 学会賞は日本装蹄協会 佐藤文夫氏、奨励賞は JRA 馬事部 溝部文彬氏がそれぞれ受賞した。
- 11 社による企業展示が行われたほか、伯楽会による絵画展示が企業展示会場で行われた。
- 参加人数はコロナ前に行われた第 30 回～32 回に比べ減少した。特に非会員の減少が目立つが、コロナ禍において様子を見る動きと考えられ、次年度以降は持ち直すものとの見解が示された。
- シンポジウム中止に伴う録画映像配信経費がかさみ、学術集会の経費は著しく増加した。しかし、仮に予定通りに行われ撮影および配信を行わなかった場合、そして仮に第 32 回(2019 年)の一般参加者と同様の人数が今回値上げされた参加費を支払って参加していた場合、収支は均衡していたものと試算された。
- 学術集会に関わる決算額は予算額の範囲内に収まっていた。企業展示収入については 3 月末に決算されるため、次回の常任理事会で報告を行うこととする。
- 今回初めて事前登録制を採用し、受付を事前登録の有無により分けたところスムーズに行うことができた。金銭を直接扱うことがなくなったため、受付業務が簡略化された。

### 議題 3. 2023 年活動計画について

- 2023 年の活動計画について事務局が説明した。次回第 3 回常任理事会の開催については、7 月中旬に開催の方向。本年は役員改選の年なので、推薦者がいる場合は連絡を。

#### 議題 4. 第 36 回学術集会予定

- 事務局から第 36 回学術集会の開催方法とその検討項目を説明。
- 第 35 回では共催している調査研究発表会の影響で、1 日目の午前中にホールに多くの立ち見者が出たため、10 階会場を PV 会場として開放した。また、午後以降も 10 階会場において立ち見者が多く発生した。このため、これまで 10 階会場は 101-102 を使用していたところを 103 まで拡張して席のレイアウトに余裕をもたせることとし、打ち合わせや昼食会場は別に設定したい。
- JRA の褒章委員とウマ科学会の役員を兼務している者の負担が軽減されるよう、JRA 獣医課と協議のうえ会議日程を調整する。
- JRA の調査研究発表会では PR センターによるビデオ撮影を行う予定があるため、1 日目に Roger Smith 氏の講演が行われる場合はそのまま機材を使用して割安で撮影を行うことは可能。一方、ウマ科学会単独である 2 日目は費用を要するビデオ撮影はしない方向。臨床委員会でも要望は上がっていない。記録として残すのであれば、個人所有のハンディビデオ撮影の許可を与えればよい。ただ、前回のような事態が生じた場合の何らかのバックアップはあった方がよいと考えられる。第 3 回常任理事会の時期までに庶務及び学術担当常任理事が 1 日目の撮影の可否について検討を行うこととした。
- 各委員会の後に部屋が散らかっているケースが散見されるため、整理整頓を行うよう注意したい。
- シンポジウムは予定なし。
- Roger と謝先生の講演内容の概要について、Hippophile に各 2 ページほどの内容を掲載する予定。
- レセプションは 1 日目の終了時刻が遅いため開催しない。

#### 議題 5 その他

- 1) 第 3 回認定馬臨床獣医師認定試験について
  - 佐々木臨床担当常任理事より、2022 年 11 月 29 日（火）に KFC Hall & Rooms にて 8 名が受験し 7 名が合格。試験の合格者には認定証を郵送し、ホームページの名簿に掲載を行ったと説明。
  - 認定馬臨床獣医師事業は現在赤字事業のため、事務経費を考慮して第 4 回の試験からは受験料を 10,000 円から 15,000 円へ値上げを実施する方針を報告。また、初年度に認定した獣医師の更新手続きが本年度末から実施予定であり、この手続き費用は一人当たり 7,000 円と算出していることを報告。料金については承認された。
  - 事務局より認定試験案内における「認定の効力」項目に、本会からの退会および除名に伴う認定取り消し、あるいは停止条項を追記することが提案され承認された。なお、認定の失効はホームページにおける認定医一覧からの削

除をもって公表することとする。

- 更新に伴う手続きは、今後アイペックから更新対象者に案内が発送される。この書類に記載の上返送すると、アイペックが条件を確認し、更新料の入金が確認されたら更新の認定証が発送されるという流れである。
- 更新に必要なポイントは、ウマ科学会学術集会および調査研究発表会に毎年参加していればクリアできる内容。

## 2) 臨床委員会企画の準備状況

- 佐々木臨床担当常任理事より説明。第 36 回学術集会では、CHI Univ. の鍼治療専門の謝先生の講演を予定（アテンドは富岡先生）。その他、関東で実習を計画中。場所は日本大学などで行うことを検討中。なお、第 37 回は整形外科が専門の Newmarket Equine Hospital の Dr. Elizabeth Santchi 氏（アテンドは三石）。第 38 回は選定中。今年 11 月の臨床委員会で協議予定。

## 3) 編集委員会の議事概要（口頭報告）

- 編集委員の James H. Jones 先生がお亡くなりになったが、代替りの海外の委員候補を立てるのか未定。楠瀬編集担当常任理事より口頭で議事概要説明。
- 現在「馬の用語集 2022」を作成中。以前の内容の 1 割程度を変更。間もなく原稿は完成予定。印刷費は 2024 年度予算に計上される予定だが、弘済会からの資金援助があればありがたい。あくまで弘済会の余剰金次第。事務局の考え方としては、配付予定先は新規会員および配付希望の既存会員。既存会員に対しては会費納入時の払込票やホームページで案内して、メールで配付希望を調査したうえで、希望者に対して配付する予定とする。前回は 2002 年に 1000 部作成し現在冊子はほぼ枯渇。既存会員が払い込んだ会費の余剰金が積みあがっているため、既存会員に対しても無償配付が適当。ただしあくまでも年会費をちゃんと支払っている会員に配付する予定。冊子の PDF 化および Web 上での公開については今後の検討課題。

## 4) ICEEP12 の開催準備状況について

- 山中庶務担当常任理事より進捗状況を説明。ICEEP 組織委員会の銀行口座を開設。開催を希望しているホテルを桑原国際担当常任理事とともに視察。300 人規模の国際会議開催に相応するホテルと判断。組織委員会による契約方法については今後獣医課と経理部門との協議が必要。このため会議の仕様書作成を開催組織委員会において進めてもらうよう依頼している。ホテルは今年中の本予約が必要。なお、開催予定日 300 日前まではキャンセル料がかからない。
- 2024 年には国際委員による会議が開催されるが、ここで学会運営者に関わってもらうことを想定。このため来年より関連支出が発生する可能性があ

るため、3カ年のJRA助成事業として承認を受けるべくJRA馬事部と協議中。

5) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について

- 近藤学術担当常任理事より、奨励賞について1名推薦を受けていて、選考委員会と情報共有していることを説明。推薦理由書の締め切りは5月末日であることを伝達。

6) その他

- ウマ科学会における伯楽会の展示は今年もお願いする予定。今後は文化的な分野の企画も検討する方向で。

(15:30 終了)